



高山こくどうニュースレター-7月号

バイカモひっこし作戦

宮小6年生・宮中学生と希少種を移植

41号石浦バイパス1工区宮峠トンネル工事も始まり、トンネルからの水を流す常泉寺川じょうせんじがわに自生する高山市指定天然記念物「バイカモみなし（梅花藻）」の移植会が7月4日に開催されました。

来年、平成29年に行われる水無神社の大祭へむけて、高山市立宮小学校6年生の児童26名、宮中学校の生徒14名が同神社前の常泉寺川へバイカモを移植する体験をしました。

この“ひっこし作戦”は、「水無バイカモを守る会」様の主催により、高山維持出張所支部安全協議会で協賛し協力させていただきました



宮峠トンネル工事 ～トンネルの必要性～



挨拶をする永富高山維持出張所長

国土交通省は、みなさんの生活にとって必要な国道41号線を安全に使ってもらうために、維持・管理をしています。

また、宮峠にトンネルを掘ることもやっています。今日は、バイクモを守る会の方と、工事関係業者さんも入りバイクモを守る活動に参加しますので、みなさんよろしくお願ひします。

事故の多い宮峠ですが、これからがんばってトンネルの施工をします！
みんなが運転免許を取る頃には通れるようになっているよ！



工事の説明をする高山国道事務所職員

常泉寺川のバイクモ バイクモひっこし作戦



バイクモの生態について説明する 大森 清孝 先生

「飛騨では農業用水路に分布していることはあっても、常泉寺川のように自然の川に自生していることは珍しいんだよ。」

自然環境分野の専門家、飛騨生態調査研究室 代表の大森清孝 先生より、生態や特徴について教わりました。

移植方法は『水無バイクモを守る会』の早川会長をはじめ、会の皆様に教わりました。

平成16年台風23号の大水でほぼ全滅してしまいましたが、『水無バイクモを守る会（旧 一ノ宮バイクモを守る会）』の皆様による熱心な移植や保護活動により今に至っています。



移植方法を説明する「水無バイクモを守る会」早川 克也 会長



今回の移植から1週間後の常泉寺川の様子です。
藻のように見える緑色の塊がバイクモの茎や葉で、水面近くに点々と小さな花が元気に咲いています。

飛騨高山高校の生徒によるイタチハギ（外来生物）の防除 ～高山西ICビオトープ“飛騨の森再生”～

高山西IC内に設けたビオトープ“飛騨の森再生”で生物多様性が進む一方、特定外来生物(オオハンゴンソウ)等も進入し始めていることから、7月11日(月)飛騨高山高校環境科学科2年生12名が参加して、ビオトープ内の在来種保護のため、生態系被害防止外来種リスト(平成27年3月発表)に掲載されている「イタチハギ」の防除を行いました。また、草地性生物(ヒメシジミ、キキョウ等)の生息環境維持のために草刈りを行いました。

北アメリカ原産のイタチハギは、密生したヤブを形成し、伐採してもすぐ萌芽して再生します。ビオトープ内の在来種と競合し駆逐する可能性があることから、イタチハギを根から掘り出し処分します。



【ビオトープに侵入したイタチハギ】



【根を残さないように注意して抜き取ります】



【手鎌による草刈り作業 右上:ヒメシジミ、右下:キキョウ】



【参加者と防除したイタチハギ】

「道の駅ななもり清見」でパネル展を開催します

高山西IC内のビオトープは、飛騨高山高校環境科学科による実習を通じて、ゾーンごとに維持管理が行われています。適切な維持管理により多様な自然環境が復元され、多くの種類の生物が生息できるようになり、生態系の仕組みを理解する環境学習の場としても充実してきています。

今回、生徒たちの活動とその成果を広く地域の方々に知っていただくために、7月27日(水)から9月12日(月)まで「道の駅ななもり清見」において生徒企画によるパネル展を開催します。ぜひお越しください。



【パネル展示状況(H27.8)】



【アンケート状況(H27.8)】

労働災害の防止に向けて

「平成28年度国土交通省高山国道事務所工事安全協議会」総会を開催

7月15日(金)、飛騨高山ビックアリーナに於いて、高山労働基準監督署 安藤富士子安全衛生課長を来賓に迎え、「平成28年度国土交通省高山国道事務所工事安全協議会総会」を開催し、35社・58名の企業の方に参加いただきました。

最初に、和賀所長から挨拶を述べた後、高山労働基準監督署安藤安全衛生課長より、「建設業における労働災害防止について」と題して、労働災害の発生状況及びこれらの原因について御講演いただきました。



和賀所長による挨拶



安藤安全衛生課長による講演

最後に、工事安全協議会各支部の支部長（監督職員）、副支部長（受注者代表）より今年度の目標や取り組み内容を報告し、

「見えますか？あなたのまわりの
見えない危険 みんなで見つける
安全管理」

をスローガンとした安全宣言を採択しました。

続いて、事務所各支部（下呂維持、高山維持、神岡維持、中部縦貫道監督官）より各々の現場における事故防止に向けた工夫について報告がありました。



各支部からの報告



編集・発行

中部地方整備局 高山国道事務所

〒506-0055 高山市上岡本町7丁目425番地

TEL (0577)36-3822 FAX (0577)36-3801

URL <http://www.cbr.mlit.go.jp/takayama/>

平成28年7月19日発行 担当:計画課